

「自律的に活動する」能力を身に付けよう

－「強化すべき能力」とは何かを考える(2)－

開倫塾

塾長 林 明夫

宇都宮大学大学院

工学研究科客員教授

Q：塾長は、「開倫塾ニュース」の先月号で「強化すべき能力」として3つの能力をあげられましたね。

A：(林明夫：以下省略)はい。第1は「学校などで身に付けた様々な知識をうまく使いこなす能力」。第2は「異質な集団の中で交流できる能力」。第3は「自律的に活動する能力」。この3つが「グローバル化」が進む「知識基盤社会」の中で生きていくための「鍵となる基本的能力(キー・コンピテンシー)」と私は考えます。

Q：3番目の「自律的に活動する能力」をもう少し詳しく説明してください。

A：どのような状況の下でも、自分と自分の周りにいる人々の「人間としての尊厳(そんげん)」を保ちながら、より「善(よ)く」生きていくためにはどうしたらよいか。

一番大切なのは、「自分で立つ」という意味での「自立」だと考えます。無理のない範囲で少しずつでもいいから自分のことはなるべく自分自身で行えるようにすること。これが「自立」と考えます。

例えば、朝は自分自身の力で起きる。(目覚まし時計を寝る前にセットするのも大事な「能力」ですよ。)身仕度(みじた)くが自分でできる。その日の予定を確認しながら「忘れ物」のないように出掛ける準備ができる。

予定の時間の10分～20分前にその場に到着できる。(遅刻しないで、予定時間の少し前に到着できることも大事な能力。)

必要な時間に水分やバランスのよい食事がとれること。一人で身の回りの整理ができること。風呂やシャワーを使い身体の清潔が保てること。夜は決まった時間に床に就(つ)き、十分な睡眠がとれること。

「自分の力で立つ」という意味の「自立」にはどのような内容が含まれるか、皆様も是非真剣に考え、具体的に書き出し、そして、皆で話し合ってみることをお勧めします。

学校を卒業後は、「生活できるだけの収入」を生活を共にする人(世帯・せたい)とともに得ることも、「自立」に入ると私は考えます。

*「何のために働くか」と言えば、「生活できるだけの収入を得るため」と、仕事を通して「自己実現するため」と私は考えます。

生活を共にする家族とともに「生活できるだけの収入を得る」ために働くことは、人間として最も尊いことの一つだと私は考えます。

Q : 「自らの力で立つ」という意味での「自立」については、何となくわかったような気がします。

それでは、「自律」とは何ですか。「自律的に生きる」とはどのように生きることですか。

A : 「自分自身をコントロールできる力」が、「自律」だと私は考えます。世の中には、自分以外の他人も存在する。自分以外の他人のだれもが、自分と同じように自分自身を大切なものだと思いきっている。まずは、このことを厳粛な事実だと認めることです。

次に、世の中にはルールがあることを知ることです。すべてのスポーツにはルールがあり、どんなに力があってもルールに違反したプレイは、ルール違反となり認められない。同様に、世の中のルールに反した行動は評価をされない。例えば、もしそのことをやったり、やらないことが国家刑罰権の発動たる刑罰を科するに値する「刑法」に反する行為(人を殺したり、人を傷つけたり、暴行をふるったり、物を盗んだり、人を脅したり、人をだましたりすることなど)は、当人が悪いことをしていると思わなくても、犯罪行為です。(正当防衛など、犯罪とならない例外はありますが…)

Q : 「自律的に活動する」というのは、刑法や法に触れなければよいのですか。

A : どんなことがあっても、法に触れないことは大事です。これに加えて、「人としての道」に反しないことも大切です。「お天道様(てんとうさま)に恥じない行動をすること」が大切。

Q : 何が「人としての道に反しない、お天道様に恥じない行動」なのですか。どのようにしてそれらを学べばよいのですか。

A : 自分がされていやなことは、他人にもしない。よく考えれば、そうされたいやだなと思うことは、他人にはしない。そのような意味での想像力・推測能力を持つことは大事かと私は思います。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : 新聞を毎日1時間なめるように読んで、考えることも、「自律心」を育(はぐく)む上でとても役に立ちます。

これに加えて、「孔子」の教えを書き記した「論語(ろんご)」を少しずつ声に出して読み続けることを、私はお勧めします。中世から江戸時代の日本人は、中国の古典である「論語」を深く深く読み、人間としての生き方とは何かを考えたようです。

江戸時代末期に日本を訪れた多くの外国人が、日本人の「高い倫理」性や、行き届いた躰(しつけ)つまり「美しい立居振舞い」と「敬語表現を含む言葉遣い」に感銘を受けたようです。これは、個人塾や寺子屋、藩校で「論語」の素読が広く行われ、また、大人になっても「論語」に親しむ日本人が多かったためと私は考えます。一生かけて少しずつ読むに値する本として、私の一番のおすすめが「論語」です。

皆様も、一度ゆっくり「論語」を読んで、「自律心」とは何かを考えてみませんか。

2007年8月10日記